

2020年度 電子シラバス

組織学

教科名	組織学
責任者名	磯川 桂太郎
学期	前期
対象学年	2学年
授業形式等	講義

関連資料

NEW

- [2020R02_1stSmstrHistoLec.pdf](#)

資料添付

◆担当教員

磯川 桂太郎 (解剖学Ⅱ 教授)
山崎 洋介 (解剖学Ⅱ 准教授)
白土 昌之 (解剖学Ⅱ 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

われわれヒトのからだは細胞と細胞外マトリックスで構成されるということを、細胞・組織・器官・器官系の各レベルで、具体的な形態イメージとして捉えかつ考えられる理解力を身につける。

◆到達目標 (SBOs)

予定表の学修到達目標に記載の各事項が「できる」ようになること。

◆評価方法

Covid-19流行への対策として、学部から、授業の遠隔化と前期試験中止の指示があった。このため、評価方法は、当初シラバスで組み立てていた平常試験(2回)を、1) 年内(or後学期中)における実施を現在模索中のオフライン試験、および、2) 遠隔で実施する形成的な演習とその解説、の2つに置き替え、これらによって評価する。後者2)については、形成的演習への「取り組み姿勢」やそれをもとに課す課題の「提出状況」の2点を評価する予定である。詳細は教材配布サイトとメールとによって都度、受講生に通知する。

以下は、当初シラバスにおける本項「評価方法」の記載です。

平常試験(2回)はそれぞれ全授業の前半(50%)、後半(50%)を出題範囲とし、前期試験では全授業(100%)を出題範囲とする。どの授業についても出題数、評価の重みが均等となるように評価する。平常試験ではその実施日に結果の講評と問題解説を行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
磯川 桂太郎	月曜日 12:00~13:00 1号館2階202号室	isokawa.keitaro@nihon-u.ac.jp	NU-MailGメアドからのメールで、来室アポイントの照会に応じるが、授業内容についてのメール質問は不可とする。
山崎 洋介	月曜日 12:00~13:00 1号館2階228号室	yamazaki.yosuke@nihon-u.ac.jp	NU-MailGメアドからのメールで、来室アポイントの照会に応じるが、授業内容についてのメール質問は不可とする。
白土 昌之	(授講義担当日及び組織実習のある)金曜日 12:00~13:00 1号館2階227号室		

◆授業の方法

Covid-19の流行にともなって本教科の遠隔授業化を担当者らで現在鋭意進めています。本教科では従来からレジメの事前オンライン配布を行っていましたが、遠隔化にあたって、講義内容の音声ファイルを新たに提供する予定です。本シラバスの以下で示されている当初予定の講義項目は削減することなく遠隔講義としますが、講義とも関連の深い実習授業の遠隔化もなされるために、一部の講義は配置順を変更しています。以下はそうした変更を反映したシラバスになっています。なお、この電子シラバスに「関連資料」として添付されているPDFは、講義と実習の関係を掴むうえで重要であるため、必要に応じて更新し、その旨を都度メールにて受講者に周知しています。

以下は、当初シラバスにおける本項「授業の方法」の記載です。

毎回、事前にオンライン配付する「講義レジメ」をよりどころとして講義を進める。レジメは授業の流れに沿って、授業項目、重要語句、ポイントなどを記した部分と、授業の進行時に前方でも投影する視覚教材の多くを掲載した部分とからなる。こうしたレジメを用意しているのは、講義される各項目の理解のために、一貫した流れ、関係性が重要であり、また、術語(technical term)はその語句と概念を結びつけなければよいだけではなく、実体として想起できる形態と語句の結びつきをつけることも極めて重要となる。教科担当者としては、講義の流れや要点を学生自らが受講後にしかるべく思い出せるように、学生各自が必ずノートを授業中に取ることを求める。

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
講義 レジメ	授業毎にオンラインで事前配布する。ダウンロードや利用のためには、本学交付のNU-MailGのメールやそのためのアカウントを、各自用意のiPadで日頃から使う習慣を身につけておく必要がある。	磯川桂太郎 山崎洋介 白土昌之	解剖学第 II講座	2020
Virtu al sli de	初回講義時に提供サイトのURLを通知する。	本学部解剖 学第II講座 編	解剖学第 II講座	2020
参考 組織 像	iPad用アプリiOMacとして https://www2.dent.nihon-u.ac.jp/only/nusd/eduapp/appcenter/ で配付する。	本学部解剖 学第II講座 編	解剖学第 II講座	2020
教科 書	組織学・口腔組織学 第4版	磯川桂太郎 ら編	わかば出 版	2014
参考 書	はじめの一步の生化学・分子生物学 第3版	前野正夫 磯川桂太郎	羊土社	2016
その 他	講義レジメに収載した図表等に引用元として明示する成書や図書を、参考書として活用することを推奨	講義レジメ 参照	解剖学第 II講座	2020

◆DP・CP

[DP-3] 論理的・批判的思考力：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。
 [CP-3] 幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。
 [CP-4] 歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。
 [CP-5] 研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに、歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

・オンラインで事前配付の講義レジメ等にあらかじめ目を通し、講義にはそれらを持参すること。学習の仕方がわからない、自分の学習スタイルが確立されていないと自認する学生は、レジメに「目を通す」に留まらず、「音読する」(読めない字は読み方を調べる)とか、レジメ全文を「筆記して写し取る」などをするを勧める。
 ・復習にあたっては、自らと取ったノートに沿って、講義後の当日中あるいは直後の週末に復習をして、不十分と思う点は教科書等を読み、解決を図ること。どこを読んでわからないようなときは、目次をみる、索引を利用すること、学友に尋ねてみる、などを考えるということとは、当然のことである。

◆準備学習時間

予習と復習にはそれぞれ、少なくとも授業時間と同等以上の時間を充てて学修すること。

◆全学年を通しての関連教科

解剖学、生理学、生化学、発生学、免疫学、微生物学(細菌学)、病理学、薬理学など

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		5.15	3	1.細胞から生体へ	<ul style="list-style-type: none"> ・組織学の学問的位置づけと取り扱い範囲を知り、何を、どのような教材で、どのような姿勢で学ぶべきであるのかを説明できる。 ・最も基本的な概念として、上皮と結合組織の違いや特徴を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-2-3) ① 真核細胞の全体像と細胞膜、核、細胞内器官及び細胞骨格の構造と機能を説明できる。
2		5.15	4	2.上皮組織と腺 (教) pp.35-58	<ul style="list-style-type: none"> ・上皮細胞の基本構造と、関連する基本用語の意味を説明できる。 ・上皮の形態学的分類と機能的分類の意義や具体例を説明できる。 ・腺の概念、内分泌腺と外分泌腺、外分泌腺の多様化を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-2-3) ② 細胞の分泌と吸収を説明できる。 C-3-4)-(1) ① 上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。 C-3-4)-(1) ② 皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を説明できる。 C-3-4)-(1) ③ 腺の構造と分布及び分泌機構を説明できる。
3		5.15	5	3.組織標本・組織像の見方	<p>前項の講義後、(実習室に移動せず)そのまま講堂にて第5時限 14:00以降の組織実習枠を一部使用し、次に記す内容と目的で、組織学第3回にも相当する授業を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の組織標本(リアル標本)とバーチャル組織標本の作製法を学び、両者の利点・欠点を知り、これらを上手に利用しかつ正しく組織像が理解できる。 	磯川 桂太郎	この授業内容は、本教科での学びの拠り所となるコアカリキュラム項目のすべてに該当
4		5.22	3	4.固有結合組織 (教) pp.59-67	<ul style="list-style-type: none"> ・結合組織にみられる主な細胞の形態学的特徴と機能的な役割を説明できる。 ・結合組織の分類、骨、軟骨など支持組織の概念やこれらを構成する細胞を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-2) ② 多能性幹細胞と基本的な発生学的技術を概説できる。 C-3-4)-(2) ② 支持組織の分類と構成する細胞と細胞間質を説明できる。
5		5.22	4	5.細胞外マトリックス (教) pp.68-72	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞外マトリックス成分を幾つかに大別し、代表的な分子についての概要を説明できる。 ・細胞外の線維系の形態学的特徴や役割、分子構成を説明できる。 ・collagen 分子がどのように膠原線維や基底膜を形づくるのかを説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-4)-(2) ② 支持組織の分類と構成する細胞と細胞間質を説明できる。 C-2-4) ③ 主な細胞外マトリックス分子の構造と機能、合成と分解を説明できる。
6		5.22	5	6.皮膚と粘膜 (教) pp.36-41 p.60 pp.319-324	<p>前項の講義後、(実習室に移動せず)そのまま講堂にて、第5時限 14:00以降の組織実習枠を一部使用し、組織学第6回にも相当する授業(以下)が行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重層扁平上皮を構成する細胞層の組織学的な特徴を説明できる。 ・口唇の皮膚と粘膜(裏装粘膜)の組織構造を比較し、その特徴と差異を説明できる。 ・皮膚付属器である皮脂腺、立毛筋、毛、汗腺(エクリン型・アポクリン型)、爪などの存在部位と組織学的特徴を説明できる。 ・重層扁平上皮層内のケラチノサイト以外の細胞を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-4)-(1) ② 皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を説明できる。

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
7		5.29	3	7.支持組織 1)軟骨組織 (教) pp.68-72 pp.83-89	・生体内に存在する軟骨組織の種類や分布、役割、成長様式を説明できる。 ・proteoglycanの分子構造を説明できる。この分子と、軟骨の組織学的な特徴や機能との関連を説明できる。	磯川 桂太郎	C-3-4)-(2) ③ 骨と軟骨の組織構造と構成する細胞を説明できる。
8		5.29	4	7.支持組織 2)血液と血球 (教) pp.73-81	・結合組織という観点から末血を理解し、その細胞成分(血球)の種類、形態学的特徴、臨床検査的な基本的事項を説明できる。 ・造血と造血組織の基本的事項を説明できる。 ・血液、細胞外液、リンパの関係や循環を説明できる。	磯川 桂太郎	C-3-4)-(4) ④ 血液の構成要素と役割を説明できる。 C-3-4)-(4) ⑥ 造血器官と造血機構を説明できる。
9		6.5	3	7.支持組織 3)骨組織 (教) pp.91-109	・結合組織という観点から骨の基本的な特徴を説明できる。 ・骨組織にみられる細胞の組織学的特徴と機能的役割を説明できる。 ・血中のCa ²⁺ やリン濃度の恒常性維持における骨の細胞の役割を知り、骨が単なる構造的な支柱でないことを説明できる。	磯川 桂太郎	C-3-4)-(2) ① 人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を説明できる。 C-3-4)-(2) ③ 骨と軟骨の組織構造と構成する細胞を説明できる。 C-3-4)-(4) ⑥ 造血器官と造血機構を説明できる。
10		6.5	4	7.支持組織 3)骨組織 (教) pp.91-109	・長管骨のマクロ的な形態の特徴と関連する名称を整理・説明できる。 ・緻密骨の基本的な組織構造(骨層板と管系)を説明できる。 ・骨の成長と改造の関係を説明できる。 ・骨の発生様式を2つに大別しその概要を説明できる。	磯川 桂太郎	C-3-4)-(2) ③ 骨と軟骨の組織構造と構成する細胞を説明できる。 C-3-4)-(2) ④ 骨発生(軟骨内骨化と膜内骨化)、骨成長及びリモデリングの機序と調節機構を説明できる。 C-3-4)-(2) ⑤ 硬組織の成分と石灰化の機序を説明できる。
11		6.12	3	8.感覚器 (教) pp.133-136 pp.176-178 pp.339-343	・感覚器系に属する生体内の組織・構造を分類・整理して説明できる。 ・触圧覚や深部感覚等に関わる受容器の構造の概要および微絨毛が感覚受容性細胞で果たす役割を説明できる。	磯川 桂太郎	C-3-4)-(6) ① 特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。 C-3-4)-(6) ② 体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。
12		6.12	4	9.口腔腺 (教) pp.53-56 pp.345-353	・口腔腺という観点から唾液腺の種類や存在部位を整理し、分泌物の性状による唾液腺の分類を説明できる。 ・大唾液腺について、腺体の組織学的特徴、導管系の分類と特徴、開口部を学び、その相違を整理して説明できる。	磯川 桂太郎	C-3-4)-(1) ③ 腺の構造と分布及び分泌機構を説明できる。 E-2-2) ⑥ 唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。
13		6.19	3	10.細胞骨格 (教) pp.26-28 (参) pp.24-28	・細胞骨格と呼ばれる細胞内構造とその分子構成・特徴を説明できる。 ・細胞骨格が細胞の形態・極性の保持や細胞運動で果たす役割を説明できる。	磯川 桂太郎	C-2-3) ① 真核細胞の全体像と細胞膜、核、細胞内器官及び細胞骨格の構造と機能を説明できる。

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
14		6.19	4	11.細胞間結合 (教) pp.15-19 (参) pp.29-34	<ul style="list-style-type: none"> 細胞膜の構成分子の基本的な役割を説明できる。 細胞間および細胞-基質間の結合装置の構造と構成分子を整理して説明できる。 結合装置の分布と役割, 接着分子の種類や特異性を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-2-4) ① 細胞接着の機構を説明できる。
15		6.26	3	12.神経と筋 1) 神経・筋の基礎 (教) pp.111-124 pp.125-132	<ul style="list-style-type: none"> 骨格筋・心筋・平滑筋を構成する筋細胞(筋線維)それぞれの組織学的特徴を説明できる。 神経細胞の形態と神経膠細胞(グリア)の種類, 機能的な役割の概要を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-4)-(3) ① 筋組織の分類と分布を説明できる。 C-3-4)-(5) ⑦ ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。
16		6.26	4	12.神経と筋 2) 末梢神経の構築 (教) pp.125-131	<ul style="list-style-type: none"> 髄鞘(=ミエリン鞘)や神経鞘(=シュワン鞘)の構造と成因を知り, その有無による神経線維の分類や機能的な差異を説明できる。 末梢神経の組織学的構築を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-4)-(5) ① 末梢神経系の種類, 走行及び支配領域を説明できる。 C-3-4)-(5) ⑦ ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。
17		7.3	3	平常試験1 その講評・解説	<ul style="list-style-type: none"> 第1~16回の講義を範囲とする試験もしくはその代替えとなる形式的な演習等を行う。詳細は別途通知する。 なお, 当日の第4時限は, 組織学実習に振り替える。 	磯川 桂太郎	第1~16回講義のコアカリキュラムのすべてに該当
18		7.10	3	12.神経と筋 3) 筋の微細構造 (教) pp.111-124 pp.133-136 (参) pp.82-85	<ul style="list-style-type: none"> 横紋筋細胞内の微細構造及び機能が光顕的に観察可能な横紋とどのように関連しているかを説明できる。 運動終板を介して筋細胞へ到達した刺激により, actomyosin 系に基づく筋収縮が生じる機構を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-4)-(3) ② 筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。
19		7.10	4	13.脈管系 1) 毛細血管 2) 動脈と静脈 (教) pp.119-124 pp.149-155	<ul style="list-style-type: none"> 毛細血管の構造と機能の関連を説明できる。 動脈(筋型/弾性型)壁と静脈壁の構造を機能と関連づけて説明できる。 	山崎 洋介	C-3-4)-(4) ③ 血管の構造と血圧調節機能を説明できる。

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
20		7.17	3	14.リンパ性器官 1) リンパ管 2) リンパ節 (教) pp.139-148 p.344	<ul style="list-style-type: none"> リンパ性器官の機能的階層性を説明できる。 リンパ節の組織構造をリンパの流れに沿って整理し、リンパ節内の細胞の形態的特徴や機能的役割を説明できる。 リンパ節がリンパの流路で歩哨的に介在していることを説明できる。 	山崎 洋介	C-3-4)-(4) ⑤ リンパ管とリンパ系組織・器官の構造と機能を説明できる。
21		7.17	4	14.リンパ性器官 3) 脾臓 (教) pp.144-146	<ul style="list-style-type: none"> 脾臓の組織構造を血流に沿って整理し、また、毛細血管としての脾洞の特殊性を説明できる。 脾臓に見られる細胞、その形態的特徴や機能的役割を説明できる。 	山崎 洋介	C-3-4)-(4) ⑤ リンパ管とリンパ系組織・器官の構造と機能を説明できる。
22		7.31	3	15.消化器系 1) 消化管の基本構造 2) 食道 (教) pp.158-158	<ul style="list-style-type: none"> 消化管の基本構造を学び、管壁各層の区分と特徴が説明できる。 壁内腺の概念と組織学的特徴を説明できる。 筋層と壁内神経叢の位置・機能的関係を学び、筋層の支配神経を説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-4)-(7) ① 消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。
23		7.31	4	15.消化器系 3) 胃 (教) pp.158-162	<ul style="list-style-type: none"> 胃壁および胃腺の構造と、胃腺を構成する細胞の組織学的な特徴と機能を説明できる。 胃酸の分泌を、その制御因子および細胞内分泌細管のダイナミクスという2つの観点から説明できる。 	磯川 桂太郎	C-3-4)-(7) ① 消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。
24		8.7	3	15.消化器系 4) 小腸 5) 大腸 (教) pp.162-166	<ul style="list-style-type: none"> 輪状ヒダ、腸絨毛、微絨毛の相違と役割を知り、腸管粘膜の部位差と消化吸収機能との関連を説明できる。 腸腺(Lieberkühn 腺)と十二指腸腺(Brunner 腺)の組織学的特徴を説明できる。 腸管上皮のライフサイクルを知り、上皮層を構成する細胞種を説明できる。 腸管壁で見られるリンパ性組織の特徴と機能的な役割を説明できる。 	白土 昌之	C-3-4)-(7) ① 消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。
25		8.7	4	16.内分泌器 (教) pp.170-173 pp.194-208	<ul style="list-style-type: none"> 生体内での内分泌器官の分布と産生ホルモンについてまとめ、これらが階層的に調節されていることを説明できる。 ホルモン等の生理活性物質について、その分泌や作用様式を整理して説明できる。 甲状腺の組織像を説明できる。 腸管の内分泌細胞の特徴を学び、それらが産生するホルモンの役割を説明できる。 	白土 昌之	C-3-4)-(9) ① 内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
26		8.14	3	15.消化器系 6) 肝臓 (教) pp.168-172	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肝臓の小葉構造を形態学的な面と機能的な面から説明できる。 ・ 小葉内の細胞について、その組織学的特徴を肝機能と関連づけて説明できる。 ・ 肝臓内の血流と胆汁の分泌経路を正しい用語を使って説明できる。 	白土 昌之	C-3-4)-(7) ② 肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。
27		8.14	4	15.消化器系 7) 膵臓 (教) pp.166-170 (参) pp.136-141	<ul style="list-style-type: none"> ・ 膵臓外分泌部の組織像を学び、分泌物の性状と組織構造との関連性を説明できる。 ・ 膵臓内分泌部（ランゲルハンス島）の組織像を学び、細胞と産生ホルモンの関係を整理して説明できる。 ・ 消化酵素の種類、分泌制御に関わる細胞・ホルモン等を整理して説明できる。 	山崎 洋介	C-3-4)-(7) ③ 膵臓（外分泌部と内分泌部）の構造と機能を説明できる。
28		8.21	3	17.呼吸器系 1) 鼻腔・副鼻腔 2) 気管 3) 肺 (教) pp.175-184	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鼻腔の構造と呼吸部粘膜の組織学的な特徴、副鼻腔の位置・役割を説明できる。 ・ 鼻腔から肺、特に気管から肺へ至る各部の組織学的特徴を説明できる。 ・ 肺胞へ至る各部の組織学的特徴を説明できる。 ・ 血液-空気関門としての肺胞壁の構造を学び、肺胞上皮の種類、形態学的特徴、機能的役割を説明できる。 	白土 昌之	C-3-4)-(8) ① ①気道系の構造と機能を説明できる。 C-3-4)-(8) ② 肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。
29		8.21	4	18.泌尿器系 (教) pp.185-191	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腎臓の構造的・機能的単位であるネフロンを構成を学び、腎小体の構造をその発生過程から説明できる。 ・ 尿細管・集合管系各部の組織像を尿生成のプロセスと関連づけて説明できる。 ・ 傍糸球体装置の細胞構成や血圧の恒常性維持に果たす役割を説明できる。 ・ 泌尿器系臓器の概要を把握する。特に膀胱上皮の組織学的な特徴を説明できる。 	白土 昌之	C-3-4)-(10) ① 腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。
30		8.28	3	平常試験 2 その講評・解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 18～29 回の講義を範囲とする試験もしくはその代替えとなる形成的な演習等を行う。詳細は別途通知する。 ・ なお、当日の第4時限は、組織学実習に振り替える。 	磯川 桂太郎 山崎 洋介 白土 昌之	第18～29回講義のコアカリキュラムのすべてに該当

閉じる

↑ Topに戻る